

子ども会における危機管理

I. 危機管理（リスクマネジメント）とは何か

子ども会における健康と安全の確保は、子ども会活動支援の基本

安全とは 身体的な面…小さな傷は経験しなければいけない

精神的な面…精神的な傷は深いものになってはいけない。

社会的な面…地域社会との関係など。

1. 子ども会における危機管理の考え方

子どもから様々な体験の機会が奪われている。

基本的な身体の使い方、コミュニケーション能力、社会的適応力が育っていない。

危機管理能力に問題が多く見受けられる。

保護者の価値観の変化、小さな事故が大きな訴訟問題に発展するケースもある。

2. リスクとハザードの違い

リスク（RISK）…自ら挑戦することでハザードを排除できたり軽減できる危険

ハザード（HAZARD）…見えない隠れた重大な事故につながる危険

（子どもは気がつかないので大人が管理）

※子ども会入会時にリスクについて説明しておくこと！

II. 子ども会 KYT はなぜ生まれたか

1980年、子ども会にKYTを導入。

1. KYTとは何か…中央労働災害防止協会「ゼロ災害提唱」のノウハウがヒント

2. KYTが生まれた背景とは

①尊い「犠牲」…1976年8月、三重県津市におけるよつば子ども会ハイキング活動中の水死事故で管理責任が問題となった。

②子どもの危険回避能力の低下…直接体験活動の減少

③指導者・育成者の危機意識の欠如…社会システムの大きな転換
隣近所地域社会の崩壊 等

III. 子ども会活動の危機予知ポイント

1. 事故発生とその要因を考える。

①見える危険（環境要因）…用具・場所など→チェックそしてみんなで共有

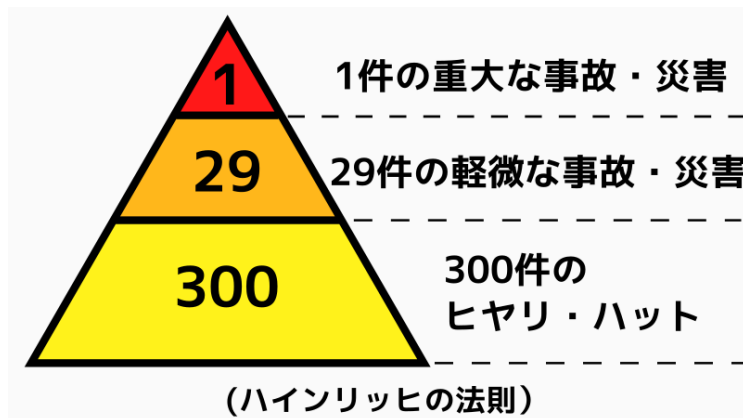
②見えない危険（人的要因）…資質・行動など→情報をもらう

→アレルギー・アトピーなど

③危険は隠れている。危険は動いている。…動線・人間関係など

2. 大事故には予兆がある…H・ハインリッヒの「1：29：300の法則」

1の大事故（災害）：29の軽い事故（事故）：300のヒヤリハット（予兆）



※人間は必ずミスをするという前提

IV. 活動における危機回避の方法

1. 指導者としてすべきこと

① アセスメント（事前調査）の重要性

活動場所の実地踏査、指導者の力量・子どもや保護者の経験や力量を知る

② 事前・現場での情報共有の重要性

指導者の役割分担の明確化、各種記録シートの用意・記入で記録を残す

③ 万一の時に備える準備の重要性

事故発生時の救急体制の確立、傷害保険・損害賠償保険への加入

2. 子どもや保護者にしておくべきこと

① 子ども会への加入確認

保護者への説明による契約（同意書）

② 子ども・保護者へのインフォームドコンセント

活動の事前オリエンテーション

※インフォームドコンセント：医師と患者との十分な情報を伝えられた上での合意

③ ジュニア・リーダー、子どもへの安全教育活動

イメージできない危険を回避することは不可能→KYTの必要性

V. 安全教育のサイクル

1. 子ども会 KYT を伝える…学ぶことで町に広がる危機管理意識

2. 現場での活動を通して危険予知能力を高める…体験活動が学びを深める

3. 活動のふりかえり…安全教育への意識の恒常化

↓

子どもにとって住みやすいまちづくりに繋がる